

思い出の1ページ



長洲小学校

戦争体験のお話を聞いて 学んだこと

北川 大翔

10月7日、総合的な学習の時間の平和学習で長洲町遺族会会長の松下進さんが戦争のお話をしてくださいました。それまで、僕は広島や長崎の原子爆弾のことを少し知っていて、戦争はかなり昔の遠い場所の出来事だと思っていました。でも、長洲町の人が570人以上亡くなったことや松下さんご自身も子どもの頃にお父さんが亡くなってしまったこと、食べ物も少なくて毎日芋などを食べていたことなどを聞く中で、長洲町も戦争でたくさんの被害を受けたことを実感しました。

また、手作りの年表や世界地図を見せながら、日本がいつ、どのような状況で戦争を始めていったのか、時代や暮らしがどのように変わっていったのかについて、詳しく説明してくださいました。さらに、社会の歴史の勉強では、歴史の中でも何回も争いは起こっていることを学習しました。戦争は昔のこと、終わったことだと思っていましたが、世界では何度も繰り返されている真実に目を向けると、今の平和なくらしは、当たり前のことではなく、人々の努力によって維持されているのだと考えるようになりました。少し時代が違っていたら、僕のお父さんや僕自身も戦争に行くことになっていたかもしれません。戦争はたくさんの人が亡くなってしまおうし、生き残った人もずっと苦しい思いをします。

僕たちは、10月31日から修学旅行に行き、長崎の原爆資料館を見学したり、戦争について語り部さんのお話を聞いたりします。しっかり学び、二度と戦争はしてはいけないこと、平和は、多くの人々によって、守られ、自分たちにもできることがあることを心に刻み、周りの人にも伝えていきたいです。



清里小学校 「ロボットプログラミング」

清里小の6年生は、男子8人、女子5人の笑顔が素敵な子どもたちです。清里小学校の校訓、教育目標を、自分たちの姿で示すのが最上級生の果たすべき役割だと考え、日々、学校生活を送っています。

そんな6年生は、8月28日、「ロボットプログラミング」に取り組みました。これは、厚生労働省委託事業を受け、熊本県職業能力開発協会が実施している「ITマスターによる『ITの魅力』発信講座」の一環として実施したものです。

ITマスターとして崇城大学の川本正道先生にご指導いただきました。川本先生と一緒に清里小に来たのは、全国に5セットしかないロボット君たち。子どもたちは、まず川本先生から、タブレットを使ったプログラミングの組み方を学びました。子どもたちが、プログラミングを組み、ロボットに命令をすると…「おおおお～!!」歓声が沸きました!! 目の前のロボットが立ったり、おじぎをしたりするのです。さらには、歩いたり、回ったり。子どもたちは、プログラミング通りに動くロボットの姿に大感動をしていました。授業の最後は、子どもたちがアイデアを出し合って組んだプログラミングの発表会。ロボットが、ダンスを踊る! 人の声を聞き分けて返事をする!さらには、じゃんけんで勝負したり、決めポーズをしたり!!とても貴重な体験となりました。子どもたちは授業後、「プログラミングは難しいと思っていたけど簡単でした!」、「ロボットの素晴らしさに驚きました。踊ったり、歩いたり、しゃべったり、すごかったです」、「今日の学習からもっとプログラミングのことをもっと知りたいなと思いました」などの感想を話しました。

来年度から必修化するプログラミング教育に先がけ本当に素晴らしい体験でした。

